

今 がんばっています

真野中学校

真野中学校では、総合的な学習の時間「ふるさとから学ぶ」と音楽科「日本の伝統音楽」の時間を教科の枠を越え、教科横断的な視点でつながりをもたせ、「私たちの郷土」についての学びを深めています。

1 地域に伝わる民謡「豊田音頭」

江戸時代の道中音頭が起源となっている豊田音頭は、地蔵を背負い、踊ることでも有名です。真野小学校で豊田音頭を学んだ生徒も多く、生徒には馴染みのある民謡です。1年生は音楽の授業で、地域の方から直接、唄と踊りを教わります。生徒たちは、歴史や文化だけではなく、音楽そのものの特徴を肌で感じ、学びを深めています。

昨年度は佐渡民謡の祝祭に出演し、また今年度は豊田音頭とゆかりの深い「大光寺」での校外授業を行いました。学習の成果は、文化祭等で発表します。

2 地域の方から学ぶ能

真野地区は「鷲流狂言」とのかかわりが深く、能舞台が多く現存しています。2、3年生は音楽の授業で能の謡を学習しており、能「羽衣」の謡を地域の方と一緒に謡う体験や所作などを学んでいます。

真野地区には、ほかにもさまざまな歴史や文化が多く残っており、地域の宝を大切にしたい教育活動を行っています。

問 教育委員会学校教育課

☎ 58-7351



世界遺産登録に向けて

鉾山町あいかわ・下町散策⑥

塩竈神社の相川音頭絵馬

相川一町目裏町にある塩竈神社しおがまには、市の文化財「相川音頭絵馬」が伝わっています。

この絵馬は、約1m四方の杉寄板に相川の盆踊り風景を描いたものです。中央に囃子方3人、その周辺に

仮装した39人の踊り手が輪形に踊る構図が取られています。個性的な服装をした踊り手が精巧な筆致と彩色によりいきいきと描かれており、その仮装は、頭上に船やエビの形をした灯籠をのせた人、黒布で顔をお

おった人、ザルやおかめの面をつけた人、編笠や頬かむりをした人など個性豊かです。また服装も浴衣姿や羽織、袴を着る人など、思い思いの

姿です。

盆踊りで、仮装して踊る風習は古くから伝わっており、あの世の者との世の者との区別がつかないようにするため、仮装し顔をかくすと言われています。

相川の盆踊りの起源は定かではありませんが、『異本佐渡年代記』によると、「今年御広間に踊りあり、(中略)御門の前に立つる」と記載されており、寛永18(1641)年頃にはすでに始まっていたものと考えられます。

御門とは奉行所の門のことで、盆踊りには、奉行所門前の広間が解放され、奉行も見学する習わしがあったため、「御前踊り」とも呼ばれ、毎年6月上旬に、京町通りや佐渡奉行所跡で相川音頭を踊るイベント「宵乃舞」で再現されています。

また、絵馬の裏書には文政4(1821)年の記述があり、奉納された年代が分かっており、表面には絵師「藤原蘭英」の銘と押印も残されています。

問 世界遺産推進課 ☎ 63-5136



相川音頭絵馬 (所有:塩竈神社) (管理:相川郷土博物館)